

地域創造学環のフィールドワークってどんな事を学ぶの？
学内地域連携拠点フィールドワークの学生が各フィールドワークを巡ったレポート

フィールドワーク紀行

In とうもんの里フィールドワーク



とうもんの里 フィールドワーク



すごい活発に活動してるって聞くけど
どういうところなんだろう？

執筆担当：地域経営コース3年鈴木沙雪



田園空間博物館
南遠州とうもんの里総合案内所

「とうもん」とは、「稲面」「田面」を表す南遠州地域の言葉です。掛川市・袋井市・磐田市の南部には、広大な「とうもん」の風景が広がっています。

この風景を守り、地域で育まれ、受け継がれてきた暮らしの知恵を後世に伝えていくために、「NPO法人とうもんの会」によって運営されているのが、掛川市にある「田園空間博物館 南遠州とうもんの里総合案内所（以下、とうもんの里）」（掛川市山崎二三三）です。

「NPO法人とうもんの会（以下、とうもんの会）」は、南遠州とうもんの里総合案内所を拠点として活動している法人組織です。とうもんの会では、農業や農村文化などの魅力を伝えるとともに、地域に住む人達が誇りを持ち、来る人との心豊かなふれあいを創造することを目的として、農業体験、自然観察、とうもんの歴史講座、料理教室、地域で営まれる農業や農村文化の情報発信など、さまざまな事業を定期的に行っています。



私たちがとうもんの里の
鍵-Key-になる！



とうもんの里フィールドワークの学生たちの集合写真

静岡大学地域創造学環の学生たちによるととうもんの里でのフィールドワークは、二〇一六年一月からスタートしました。地域で育まれ、地域で受け継がれてきた「たから」の魅力を伝えて、未来に残してゆきたいという地域の住民の方々の思いを受けて、「子供たちをとうもんの里に呼び込むための環境づくり」を活動の目標に設定して、現在に至るまで様々な活動に取り組んでいます。

学生たちは「Key MoN」を合言葉に活動に取り組んでいます。ここには「自分たちがとうもんの里の“鍵”(Key)になる」という学生たちの思いが込められています。

二〇二一年三月現在、メンバーは、四年生一名、三年生四名、二年生五名、一年生四名の計十四名。学生たちは自身の学びや特技を活かし、協力しながら、多様な活動を展開しています。

Key MoN
キーモン

想像以上に
豊かな自然に感激！

私も夕方まで子供たちと遊びたい・・・



自然溢れるとうもんの里の一場面をスクラップ！



KeeY MoN これまでの活動記録



わら小屋、竹の道具の製作。
子ども達には新鮮さを、大人達には懐かしさを提供することができた。



とうもんの食の方々と話し合いを重ねながら、とうもんの自然を体感するウォーキングイベントを実施。学生が作ったみかんゼリーは大好評だった。



【とうもん図鑑】子ども達が探検家になって、とうもんの里で見つけた生き物を描いた絵や採集した植物などを貼り付けて、図鑑を完成させるプロジェクト。



【フィールドワーク現地活動報告会】毎年12月、フィールドワークにご協力いただいている地域の方々にお越しいただき、学生たちの1年間の活動や学んだことなどを報告します。

キッズフェス 「とうもんらんど」レポ

レッツゴ〜〜〜！！



KeeYMoNによる「とうもんらんど」を
もっと詳しくみてみよう！

執筆担当：地域経営コース3年伊澤功多

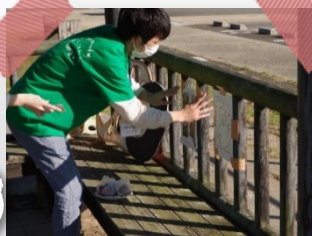


2020年11月23日、とうもんの里で「とうもんらんど〜親子でとうもんマップを完成させよう〜」が開催されました。このイベントは、昨年、学生達がとうもんの里で遊ぶ子どもや保護者の様子を観察して、発見したことをもとに考案した企画です。子ども達にとうもんの里に親しみを持ってもらい、「また遊びにきたい」と思ってもらえるきっかけとなるよう今回、このイベントを企画しました。イベントのコンセプトは「五感を使ってとうもんの里の魅力を発見しよう！！」。笹舟づくりやフォトフレームを使った写真撮影など、全部で5つのミッションをクリアしてスタンプをゲットするという、とうもんの里の施設・敷地全体を使ったスタンプラリーイベントです。私たちが、イベントの様子をレポートします。

▶ 当日の事前打ち合わせとキッズフェスの準備 (9:00~10:00)



みんなで頑張ろう！



学生全員でタイムテーブルや注意点の確認をしました。「子ども達にイベントを楽しんでもらって、とうもんの里に親しんでもらうぞ！！」受付が始まる前から、続々と多くの子ども達が集まりました。

▶ ミッションの説明と笹舟づくり (10:00~10:20)

学生が子ども達にスタンプラリーの説明をしました。ミッションをクリアすると、野菜で作ったスタンプをゲット！！笹舟づくりでは、笹にまつわるさまざまな知識を子ども達に工夫して分かりやすく伝えました。



こうやって作るんだよ

▶ 学生が工夫を凝らした4つのミッション！！ (10:20~11:50)

①自分で作った笹舟でレースをしよう

どっちが速いかな？



自分で作った笹舟を使って、敷地内の池でレースをしました！自然にあるものを使った遊びを現代の子ども達に体験してもらうのが目的です。子ども達は、学生と一緒に何度も笹舟を小川に流して遊んでいました。

② フォトフレームを使って写真を撮ろう

学生手作りの野菜をモチーフにしたフレームやインスタフレームを使って、とうもんの里の美しい田園風景と一緒に写真を撮りました。子ども達が楽しむだけでなく、保護者の方々も楽しそうにその様子を撮影している姿が印象的でした。



③ 「野菜カード」で遊ぼう



どのカードにする？



野菜の絵が描かれたカードで神経衰弱などのゲームをしました。子ども達が楽しみながらも、知識を得られるような工夫がされていて、多くの子どもが集まりました！学生と子ども達が一緒になって遊ぶ様子がみられました。

④ チョークで絵を描こう

子ども達がチョークを使って、施設の黒壁などに思い思いの絵を描いて楽しみました。子ども達は学生達とおしゃべりしながら絵を描き、保護者の方々からは「貴重な経験になった」との声がありました！



それはなんの絵かな？



感想共有や写真撮影など (11:50~12:00)



まだ遊び足りない！

スタンプが全て揃った子どもに記念のシールを渡し、写真撮影をしました！最後に学生達は、子ども達に「とうもんの里にまた遊びに来てね！」と呼びかけました。イベント終了後も子ども達は竹馬などの遊具を使って遊んでいる姿がみられ、とうもんの里の魅力を感じてくれたようです。

イベントの振り返り・後片付け (13:35~)

イベントの終了後に、良かった点などを全体で共有して、イベントの振り返りをしました。小さな気づきや意見が積極的に挙げられていて、このような話し合いが、次のイベントや、自分たちのフィールドワークの活動や学びに活かされています。



改善点はどこかな？



フィールドワークリポート特集

VOICE OF 1年生



今回のフィールドワークが初めてのイベント運営となった、とうもんの里フィールドの1年生。初めてのフィールドワークや初めてのイベント運営を終えて感じたことや、フィールドの雰囲気、魅力、成長したと感ずること、そしてこれからのとうもんの里フィールドへの関わり方。1年生の声を聞いてみました。

フィールドワーク初のイベント運営を終えた1年生の率直な思いとは？



執筆担当：地域経営分野1年 納吉成

学 生 紹 介



村岡 蒼太

Sota Muraoka

地域サステナビリティコース
環境防災分野1年生。岐阜県出身。

学習したいテーマを見つけるために地域創造学環を志望。高校時代はボランティア活動等には積極的ではなかったが、部活動には熱中していた。

初めてのイベント運営でイベント当日は緊張もしたが、子ども達の意外な一面を学ぶことが出来て率直に楽しかったです。フィールドワークは事前準備を含め三回ほど行ってきましたが、先輩方は皆優しく、どんな細かい事でも聞ける環境にあるので、非常に良い雰囲気だと思います。僕がとうもんの里フィールドを選んだきっかけに里山の生態系に興味があった事、そしてフィールドワークの説明会での先輩の押しが強かったことが挙げられます。このフィールドの魅力は上下関係が無く、とてもアットホームな雰囲気です。この他に、学生の層が厚いことが挙げられると思います。私たちのフィールドではスポーツ系やアート系の学生が在籍しており、本当に学生の幅が広く、中々新鮮な考えを聞くことが出来ます。

今回のフィールドワークを終えて成長したと感ずる点は今まで以上に積極的な姿勢を取るようになったことです。もちろんフィールドワークでの活動での積極性も言えることですが、学生生活の面においても自分の学びたいテーマの方向がはっきりと見えてきた気がしました。また、学生生活以外でも部活動等で積極的な姿勢が活かされるように感じました。一方、今回のイベント運営では新たな課題も多数生じたので、反省し改善していきたいです。

フィールドワークは非常に長いスパン続きます。今回のイベントの課題の改善だけではなく、何か自分の長所を生かした活動をしていきたいです。具体的には私は里山や生態系について興味があるので、とうもんの里周辺の生き物に焦点を当てた生物図鑑などを作成したいです。そしてその生物図鑑をたくさんの子供に見てもらい、今まで以上にとうもんの里の自然豊かさを感ずてもらいたいです。

フィールドワークで学びの指針が見つかった。
今回の経験を糧に積極的な自分へ成長する。

学 生 紹 介



舟山海里

Kairi Funayama

アート&マネジメントコース1年生。神奈川県出身。美術の教員志望で、美術の指導法だけではない+αを教えられる教員を目指し地域創造学環を志望。高校時代はフェイスペイントの資格を取得し、イベントのボランティアに参加した。

今回のフィールドワークを終えて、自身の絵に対する心境の変化をひしひしと感ずりました。以前までは絵を描くことは自分の中だけで完結するものであると考えていました。しかし、今回のイベントで自分の製作した作品が人前に出る経験を通し、絵を描くことは人々の為であると感ずられるようになりました。最後にこれから二年間という長いようで短いフィールドワークが続いていきます。一回一回大切に活動し、最終的にはとうもんの里に残り続けるような遺産的な作品を残していきたいと感ずりました。

今回のフィールドワークは初めてのイベント運営ということで、普段は相手にすることの無い小さな子ども達と触れ合う機会となり、非常に貴重な経験となりました。しかしながら、フィールドワークとしては反省するべき点も多く見られ、振り返り会の際には厳しい指導をいただき「フィールドワークの洗礼」を浴びた結果となりました。私がこのフィールドを選んだきっかけは様々ですが、第一に宿泊を伴うフィールドが良かった事。第二に美術教員志望であり子供と接する機会を作りたいことが挙げられ、アートの観点で関わる事が出来て、かつ子ども達と触れ合えるこのフィールドを選びました。

まだ三回ほどしか活動していませんが、先輩もニックネームで呼び合える環境が出来ているくらいこのフィールドはとにかく雰囲気が良いことが魅力です。また、受け入れ先の方のアドバイスも魅力であると思います。初めてのフィールドワークの際に受け入れ先の方と十分ほど面談をする機会をいただきました。最初は十分も何を話すのか不安に思っていました。受け入れ先の方が積極的に話しかけてくださり、的確なアドバイスもあって本当に充実した面談となりました。各学生が興味を持つ分野に沿った面談を展開されるそうで、受け入れ先の方の知識の広さに衝撃を受けました。

受け入れ先の方のアドバイスに衝撃。
絵に対する考え方をフィールドワークが変えた。



第1回

連載

学生の声 に触れてみた

フィールドワークを通じ、
知識や興味の幅が増える

学環で学ぶ学生の
「生」の声を聞いた！



執筆担当：地域経営コース3年鈴木沙雪

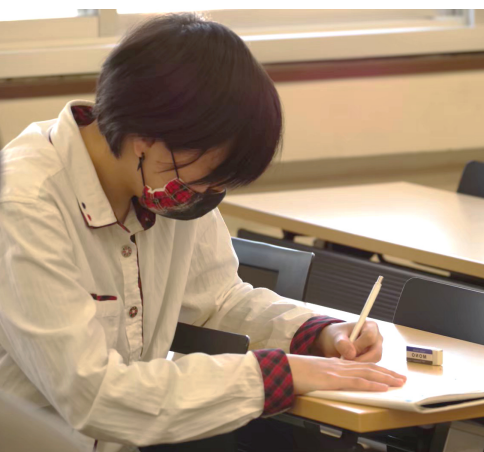
とうもんの里フィールドワーク
矢五田萌加（やごたもえか）

やりたいことを見つける時間
それが学環での学びだった

ー鈴木…学環に入学した当初は？

入学当時は、他の1年生が「高校の時からこれやってました」って言える子とか、「これやりたいです」って将来のこと話せるような子たちばかりで、「大学入ってから決めればいいや」って思ってた自分との差に悩むこともありました。

今は、先輩が寺子屋でのワークショップや学生スタッフのインターンなどの情報を教えてくれたりと、とても良くてくれて、とても充実しています。そういった活動や、授業で地域の現状や活性化の事例を学ぶうちにいろいろなことに関味がわいてきて、今は家族やコミュニティ、人間関係といった社会福祉など、共生方面の授業を多く受講しています。面白そうと思った授業を片っ端から履修しているの、気づいたら農学棟で受講して、なんてこともあります。



ー鈴木…周りにいい影響を与えられながら、果敢にいろんなことに挑戦されたんですね。
フィールドワークについてはどうですか？
「とうもんの里」についてはフィールドワーク報告会の際に初めて知りました。私自身、小さいころによく田舎にある祖父母の家に預けられていて、そういう自然豊かな空間とかが好きだったので、とうもんの里を選びました。実際に行ってみると、平坦な土地に田んぼが広がっている風景がすごく綺麗で、名倉さんをはじめとする受け入れ先の地域の方々はとにかく包容力がすごかったです。これはダメとか全然言われなくて、何にでも挑戦させてくれるので、提案とか意見もとても言いやすいです。



ー鈴木…意見を言い合える、懸命に取り組める仲間がいることは素晴らしいですね。最後に、今後受験を考える高校生に向けてメッセージをお願いします。

高校生活を振り返ると、自分のやりたいこととか興味があることを大切にしてこなかったたので、そういうのを考えておけばよかったなあっていうのは今でも思います。でも、フィールドワークをやるうちにどんどん知識が増えて、興味も出てきて、入ってよかったと思ってるので、とうもんの里フィールドワークは、やりたいことがこれって言えなくても来ていい場所なのかなって思います。

地域の方の包容力が
学生が主体的に活動できる
基盤となっているんだね！



連載

地域の声 に触れてみた

第1回

チームワークがピカイチ
私たちにもいい刺激！

主体性に任せているから
ら学生が活発なんだ！

執筆担当：地域経営コース3年古田萌黄

NPO法人とうもんの会

名倉光子さん

地域の方との距離がグッと近い
主体性を重んじた活発な活動

「古田…フィールドワークを受け入れる中で
どんな事を大切にされていますか？また、ど
んな学生がこのフィールドワークの門を叩く
のでしょうか？」

とうもんの里では、学生たちの自主性を大
切にします。例えば、ここの看板です。これ
は、学環一期の学生が作ったものです。その
後も、遊具や竹馬など次々にアイデアを形に
してくれました。このイベントのフレームも、
学生が夏休みに訪れて葉っぱや青空を見る中
で思い付き、形にしたものです。

「自然」「子ども」などの言葉に惹かれて
来る学生が多い印象ですね。でも、五つの
コースの学生（※1）がいるから、それぞれ
学んできた事や関心が違います。だからこそ、
とうもんの里で今後何をしていくか、そんな
アイデアを出す場面において多様な視点があ
ります。各々が積極的に多様な意見を出して
くれるので、学生にとっても私たちにとつて
もいい刺激になっています。



学環生がデザインした看板

（※1）現在はコース再編が行われ、3つのコースになっています。

「古田…学生の主体性を重んじた姿は、今回
取材をする中でも多く伺えました。先輩と後
輩の関係性もとても良さそうですね。」

先輩が後輩を大切に育ててくれるのが。こ
のフィールドワークの魅力でもありますね。
フィールドワークの前日、お寺に宿泊するの
が習慣ですが、その時にメンバー内の仲の良
さも自然と深まっていくんでしょうね。そん
な仲の良さが、年々とフィールドワークで行
う活動の質が上げてきています。先輩の背中
を見て後輩たちが次に繋げていこうという意
識を持っていてくれるんです。去年はここが
できなかったから、今年はこれをやろうと積
み重ねてくれています。



「古田…積み重ねが、現在のとうもんの里
フィールドワークの素晴らしい活動を育んで
いるんですね。では、最後に今後どのような
事を学生たちに期待しているか聞かせてくだ
さい。」

学生には、いつか授業を超えて、とうもん
の里に関わって欲しいと思います。例えば、
地域経営や地域共生コースの子たちがNPO
の運営にもっと意見を活発に出してくれたり
ね。だから、大学での学びをこの人たちにど
う活かして生かせるか、授業以上に関わり合
いを持ってくれることを期待しています。

学年間の絆がより良い活動を
生み出していっている！
今後のとうもんの里が楽しみ！

